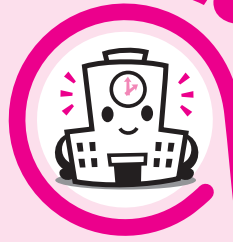


# つながる



## 学校と家庭の学び

# 家庭と共に子どもの自信を育み 安心した進級・進学につなげる

### 福岡県北九州市立企救丘小学校

北九州市立企救丘小学校では、子どもの自己肯定感を高めるために少人数制の学習指導、「コミュニケーション能力を伸ばすために」「対人スキルアップ学習」を行っている。子どもや保護者の悩みを聞くことで取り組みの成果を測りながら、子どもの心に寄り添った結果、学習に自信を持ち、他者を気遣う子どもが増えているという。

### 子どもの自己肯定感と コミュニケーション能力を育む

北九州市立企救丘小学校は、児童数が900人を超える大規模校だ。素直で人懐こく、学校を訪れた人にも積極的にあいさつをする子どもが多い。ただ、子どもへのアンケート結果などからは、自尊心が低い様子が見て取れた。また、核家族化が進み、固定された人間関係の中で育つことなどにより、ケンカをしても解決方法が分からないなど、多くの友だちとうまく意思を疎通できない

子どもが増えていたという。

そこで、数年前から子どもの自己肯定感とコミュニケーション能力を高めるための活動に力を入れている。

取り組みの柱は2つある。1つめは少人数制の学習指導だ。全学年の算数の授業では、つまり子どもが多い単元でクラスを二分し、担任と特別加配の教師が指導する。少人数制指導によって子どもの自尊心を高めたいと、青木哲也校長は話す。

「教師の目を届きやすくすることで、つまりいけば励まし、問題が解ければ褒めるというように、子

どもの変化に応じた声掛けがしやすくなると考えました。自分の頑張りが教師に認められれば、子どもはうれいでしょうし、『やればできる』という自信も付き、前向きに学習に取り組めるようになるはずです」

更に、6年生の3学期には中学校への進学を見据え、成績と子どもへの希望などを基に5クラスを7〜8クラスに編成し直し、国語と算数で習熟度別授業を行っている。担任と特別加配の教師に加え、管理職も指導に当たると、永尾敦子副校長は話す。

「小学校段階での学習内容は、社会

で求められる知識の根幹となります。しっかりと定着させてから中学校に送り出すために、管理職も力を合わせる責任があると考えました」

取り組みの2つめの柱は、「対人スキルアップ学習」だ。子どものコミュニケーション能力を伸ばすために、他者の良いところを認めたり、他者を思いやりたりする表現を学ぶロールプレイやグループワークなどを、朝と帰りのホームルームや授業冒頭などの短い時間を中心に行っている。週1回が基本だが、学年やクラスの課題に応じられるように、実

施は学年団や担任に任せている。

教務・研究主任の高瀬隆行先生は、他者とうまくコミュニケーションを取るためには何が大切かを、子どもが実感できるように、取り組みを工夫していると話す。

「ロールプレイは、実際に学校で起こりそうな状況を想定して行っています。例えば、遊んでいて友だちにボールをぶつけてしまったという設定で、子どもがボールをぶつけた役とぶつけられた役に分かれて演じてみて、自分だったらどうしてほしいかを話し合います。他者への気遣いをただ知識として学ぶだけでなく、実感することで、実践につなげていきたいと考えています」

## 子どもの悩みを把握する 「心の相談アンケート」

「心の相談アンケート」(P.30図)も、同校が力を入れている取り組みの一つだ。これは、学習や対人関係などについて悩みや不安があるか、あればどのようなことを子どもにも尋ねるアンケートで、学期に1度ずつ、年3回行う。青木校長は、この意義を次のように話す。

「担任が子どもの悩みや不安に早め

に気づき、対策を立てられるようにしたいと考えました。子どもが安心して回答できるように、必ず秘密を守る約束をしてほしいと、先生方に伝えています。また、子どもの回答から教育活動の課題を読み取ることも出来るので、少人数制の学習指導や『対人スキルアップ学習』の内容を改善するための資料にしています」

以前から担任は2学期に子ども全員と個人面談を行っているが、「心の相談アンケート」を始めてからは、回答が気になる子どもとは1・3学期にも個人面談を行うようになった。更に、子どもには担任以外にも相談できることを伝え、子どもに合うチャンネルを増やす工夫もしている。

「本校では毎年クラス替えを行うた

め、年度初めは人間関係について悩む子どもがどの学年にもいます。1学期の面談では主にその解決を図っています。2学期の面談では学習面について話すことが多くなり、子どもの努力を認めたり、『もう少し頑張ろう』と励ましたりしています。3学期の面談では子どもの抱えている課題の解決を図ると共に、その内容を次の学年や中学校の先生に申し送り、子どもが安心して進級・進学できるようにしています」(高瀬先生)

担任は、「心の相談アンケート」の集計結果は学級通信で、面談で子どもと話したことは保護者会後の懇親会などで保護者に伝えている。家庭と密に連絡を取ることが大切だと、谷英明教頭は話す。

「学校にとって、保護者は共に子どもを育てるパートナーです。子どもの成長だけでなく、課題もこまめに伝えることで、学校の教育活動に対する家庭での理解が深まると思います。子どものありのままの姿が保護者に分かるように、気になることがあればすぐに電話をしたり、家庭を訪問したりしてほしいと、先生方に伝えています」

また、2月は保護者向けの教育相談月間とし、希望者と青木校長が面談をしている。

「進級・進学を控えた時期ですから、子どもの学習面や生活面などについて不安を抱えている保護者もいます。担任だけでなく、学校運営の責任者である校長も、保護者とじっくり話

### 福岡県北九州市立企救丘小学校

◎1973(昭和48)年開校。東に豊後水道を望む、北九州市中央部の丘陵地帯に位置する。児童数が1000人を超えた時期もある大規模校だが、子どもの個性を尊重しようと、「豊かな心を持ち、自己のよさが発揮でき、一人一人が生き生きと輝く子どもを育成する」を教育目標に掲げる。地域住民が校内巡視、図書室の図書の貸し出しや整理を行うなど、地域との結び付きも強い。

校長 青木哲也先生  
児童数 910人  
学級数 30学級(うち特別支援学級4)  
所在地 〒802-0981  
福岡県北九州市小倉南区企救丘2-1-1  
TEL 093-962-0414  
URL <http://www.kita9.ed.jp/kikugaoka-e/>



北九州市立企救丘小学校校長

#### 青木哲也

あおき・てつや

「子どもが友だちとも先生方とも楽しい思い出をたくさん残せる学校をつくりたい」



北九州市立企救丘小学校副校長

#### 永尾敦子

ながお・あつこ

「子ども一人ひとりが自分の居場所を持ち、明るく元気に通える学校にしたい」



北九州市立企救丘小学校教頭

#### 谷 英明

たに・ひであき

「子ども同士が高め合える環境を整えられるように、先生方を支えていきたい」



北九州市立企救丘小学校

#### 高瀬隆行

たかせ・たかゆき

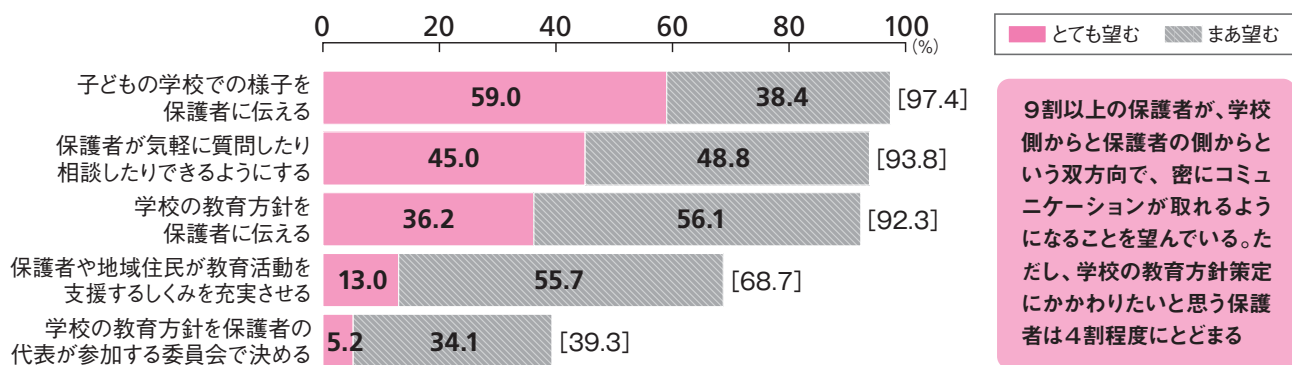
教務・研究主任。「自分の経験を若い先生方に伝え、サポートしていきたい」





## 保護者は双方向でのコミュニケーションを望む

学校に望むこと (回答: 全国の公立の小学2年生、小学5年生の子どもをもつ保護者)



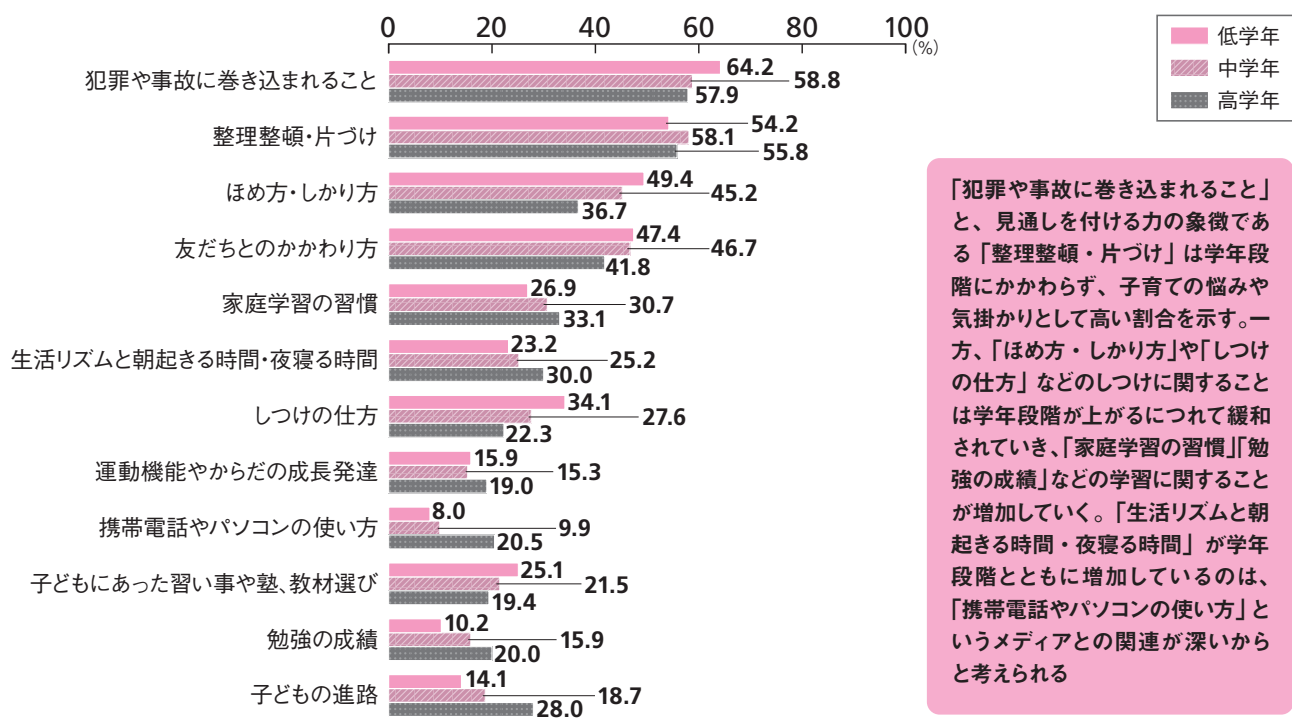
9割以上の保護者が、学校側からと保護者の側からという双方向で、密にコミュニケーションが取れるようになることを望んでいる。ただし、学校の教育方針策定にかかわりたいと思う保護者は4割程度にとどまる

注1) [ ]内は「とても望む」と「まあ望む」の合計 注2) 5項目を抜粋

出典: ベネッセ教育総合研究所 朝日新聞社共同調査「学校教育に対する保護者の意識調査2012」(2013)  
調査時期は、2012年11月～2013年1月、調査対象は、全国の公立の小学2年生・小学5年生の子どもをもつ保護者3,938人、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査

## 学年段階が上がるにつれ、しつけの悩みが減少し、学習の悩みが増加

子育ての悩み・気掛かり (回答: 全国の小学1年生～6年生の子どもをもつ母親)



「犯罪や事故に巻き込まれること」と、見通しを付ける力の象徴である「整理整頓・片づけ」は学年段階にかかわらず、子育ての悩みや気掛かりとして高い割合を示す。一方、「ほめ方・しかり方」や「しつけの仕方」などのしつけに関することは学年段階が上がるにつれて緩和されていき、「家庭学習の習慣」「勉強の成績」などの学習に関することが増加していく。「生活リズムと朝起きる時間・夜寝る時間」が学年段階とともに増加しているのは、「携帯電話やパソコンの使い方」というメディアとの関連が深いからと考えられる

注1) 複数回答 注2) 12項目を抜粋

出典: ベネッセ教育総合研究所「第4回子育て生活基本調査(小中版)」(2012)  
調査時期は、2011年9月、調査対象は、全国の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者8,079人(うち分析対象は小学生の母親4,191人(低学年1,357人、中学年1,440人、高学年1,394人))、調査方法は学校通しによる家庭での自記式質問紙調査



上記の関連データはコチラ!  
<http://berd.benesse.jp/>  
\*「調査・教育データ」コーナーをご覧ください